

学校施設のあり方に関する市民アンケート
報告書
(概要版)

令和2年 12月
上尾市教育委員会

< 目 次 >

第1章 調査の概要	- 1 -
1. 調査の目的	- 1 -
2. 調査の対象	- 1 -
3. 調査の方法	- 1 -
4. 調査期間	- 1 -
5. 調査機関	- 1 -
6. 回収結果	- 1 -
7. 報告書の見方・留意点	- 1 -
第2章 調査の結果	- 2 -
1. 学校に対する考え方	- 2 -
2. 学校施設の適正規模・適正配置	- 5 -
3. これからの学校施設のあり方について	- 8 -
4. 新しい学校の活用方法について	- 12 -
5. 新しい学校教育について	- 14 -
6. 今後の学校施設のあり方を検討する方法について	- 16 -
7. 回答者の属性	- 18 -

第1章 調査の概要

1. 調査の目的

上尾市では、児童生徒数の減少が進んでおり、小学校児童数はピーク時(昭和 55 年)に約 23,000 人、中学校生徒数はピーク時(昭和 61 年)に約 11,000 人の児童・生徒がいましたが、現在では半数程度となっています。

また、学校施設としては、ピーク時の児童生徒数を迎えるために設立した校舎も約 70%が建築後 40 年以上を経過していることから、将来を見据えた更新計画の策定が必要となっています。

そうした中、上尾市では、市全体の公共施設を整備する観点で「上尾市公共施設等総合管理計画」と「上尾市個別施設管理基本計画」を策定しており、学校施設についても、個別の『上尾市学校施設更新計画』を策定する予定です。

この計画の策定に当たり、今後の参考資料とすることを目的に本調査を実施しました。

2. 調査の対象

令和 2 年 5 月 1 日時点において、上尾市に居住しており、平成 2 6 年 4 月 2 日以降に生まれたお子様がいる世帯(8024 世帯)を対象に、無作為に 1,500 世帯を抽出。

3. 調査の方法

郵送配布・郵送回収

4. 調査期間

令和 2 年 7 月 9 日(木)～7 月 2 6 日(日)

5. 調査機関

上尾市教育委員会(教育総務部 教育総務課)が実施。

(※集計業務は八千代エンジニアリング株式会社に委託)

6. 回収結果

発送数(通) :	1,500 通
回収数(通) :	623 通
回収率(%) :	41.5%

7. 報告書の見方・留意点

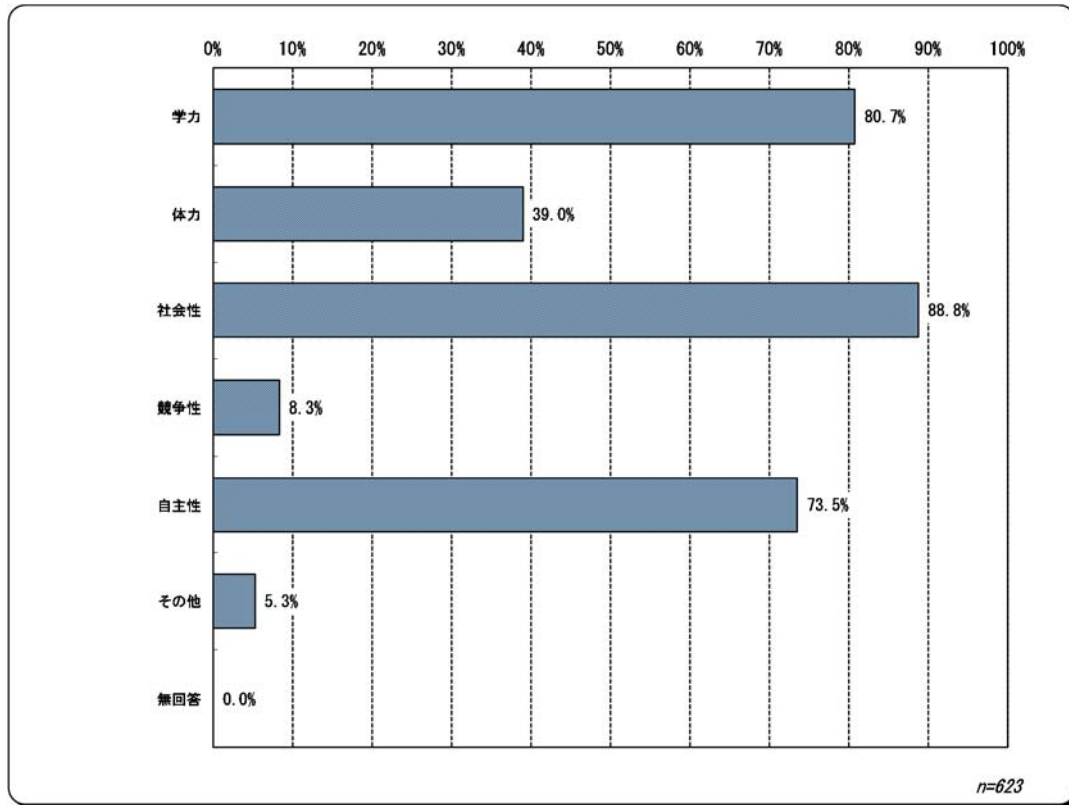
- ① 集計した数値(%)は、小数点以下第 2 位を四捨五入して表示しています。したがって、各項目の構成比の合計は、必ずしも 100%にならない場合があります。
- ② 回答者数を母数として計算しているため、複数回答の場合は、各選択肢の数値を合計すると 100%を超える場合があります。
- ③ 回答が少数である場合の比率については、特定の意向が強く反映される場合があることにご留意ください。

第2章 調査の結果

1. 学校に対する考え方

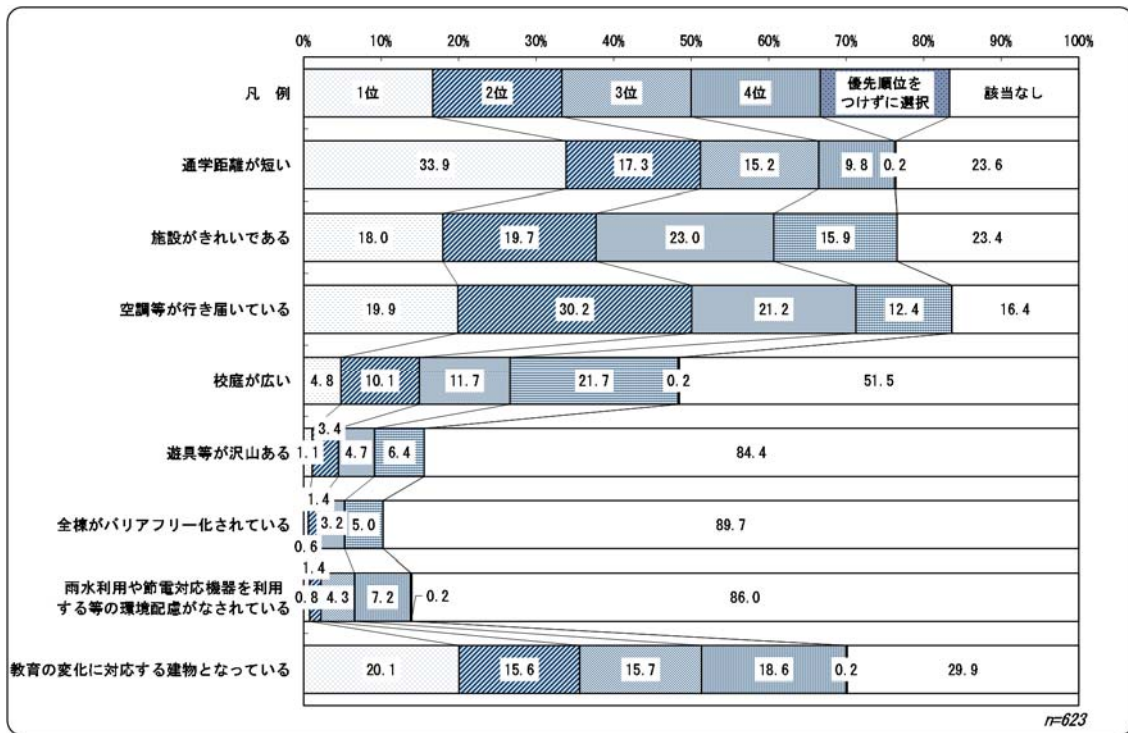
問1 お子さんが今後学校に通う際に、最も身に付けさせたいこと [当てはまる上位3つ]

- 「お子さんが今後学校に通う際に、最も身に付けさせたいこと」に対する回答としては、「社会性（88.8%）」が最も多く、次いで「学力（80.7%）」、「自主性（73.5%）」となっています。



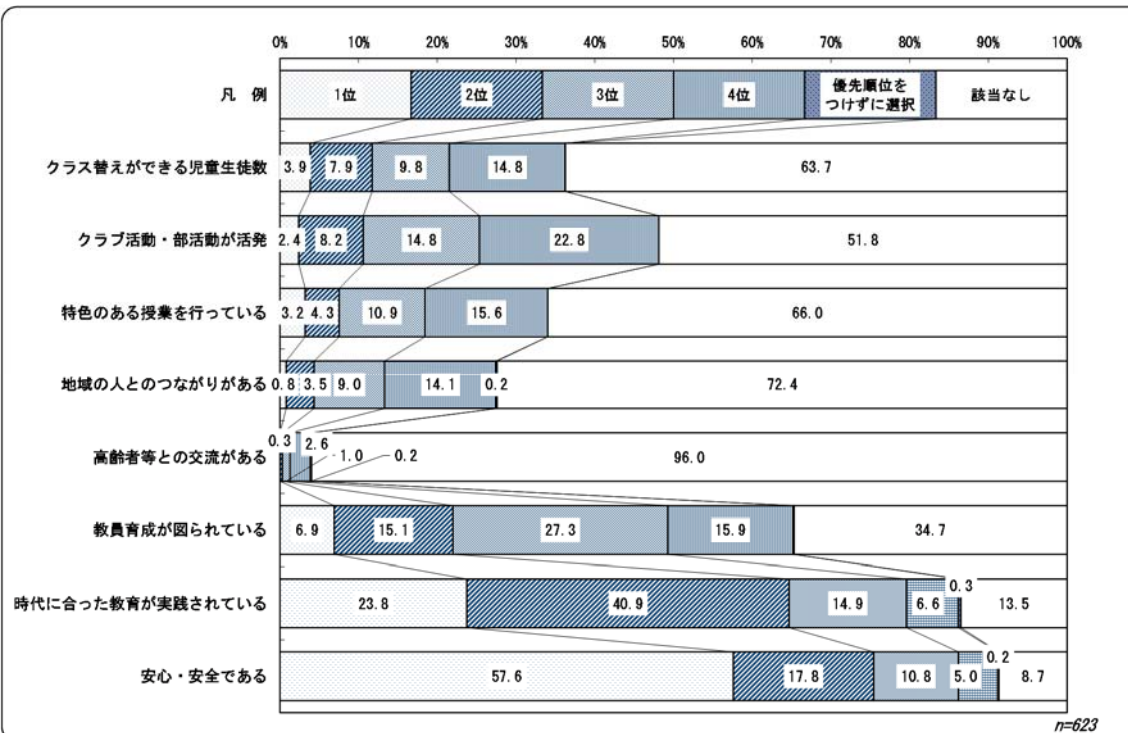
問2 学校施設に求めるもの（ハード面） [上位4番目までの優先順位]

- 「学校施設に求めるもの（ハード面）」の1位として最も多かった回答は、「通学距離が短い」でした。
- また、「施設がきれいである」、「空調等が行き届いている」、「教育の変化に対応する建物となっている」の選択肢についても、上位4番目までに選択する回答者が多くなっています。



問3 学校施設に求めるもの（ソフト面） [上位4番目までの優先順位]

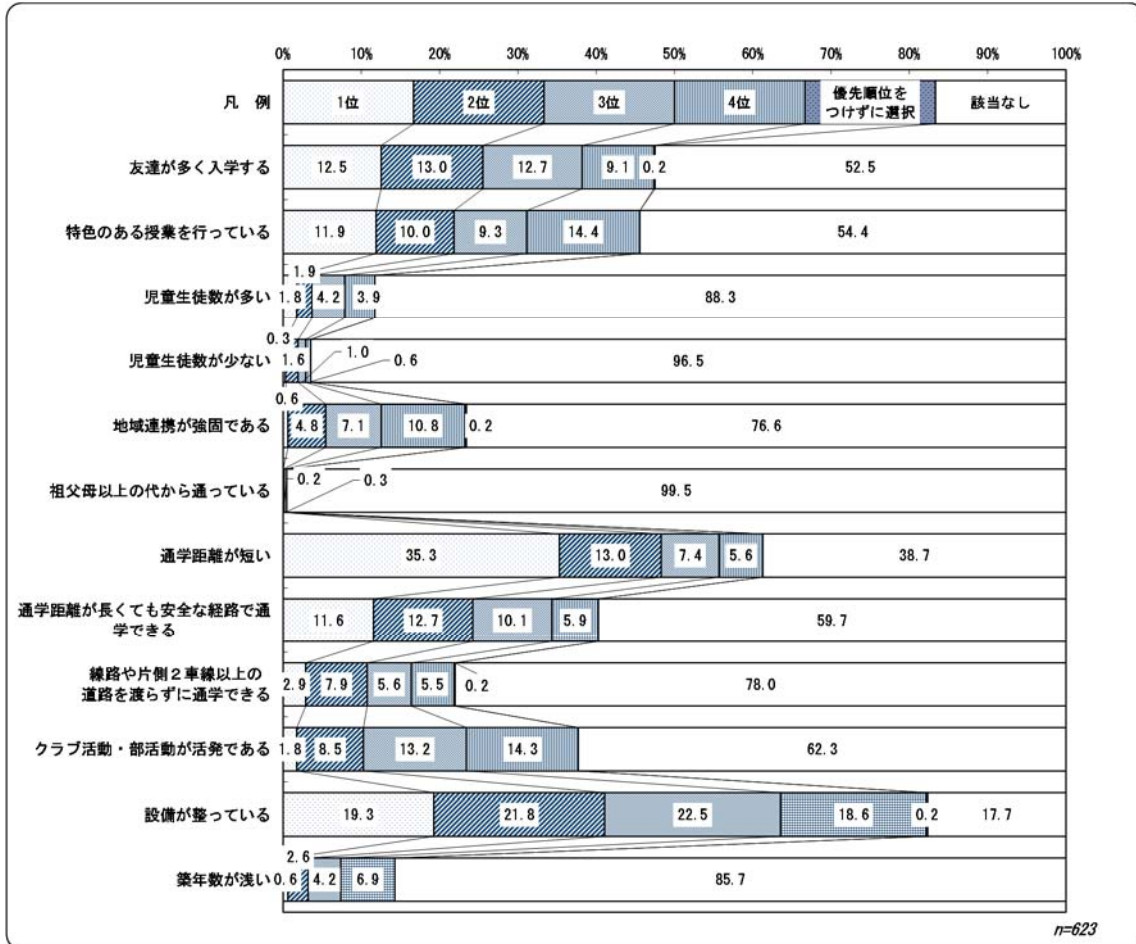
- 「学校施設に求めるもの（ソフト面）」の1位として最も多かった回答は、「安心・安全である」でした。
- また、「クラブ活動・部活動が活発」、「教員育成が図られている」、「時代に合った教育が実践されている」の選択肢についても、上位4番目までに選択する回答者が多くなっています。



問4 通う学校を選択できるようになった場合に、学校を選ぶ上で重要なこと

[上位4番目までの優先順位]

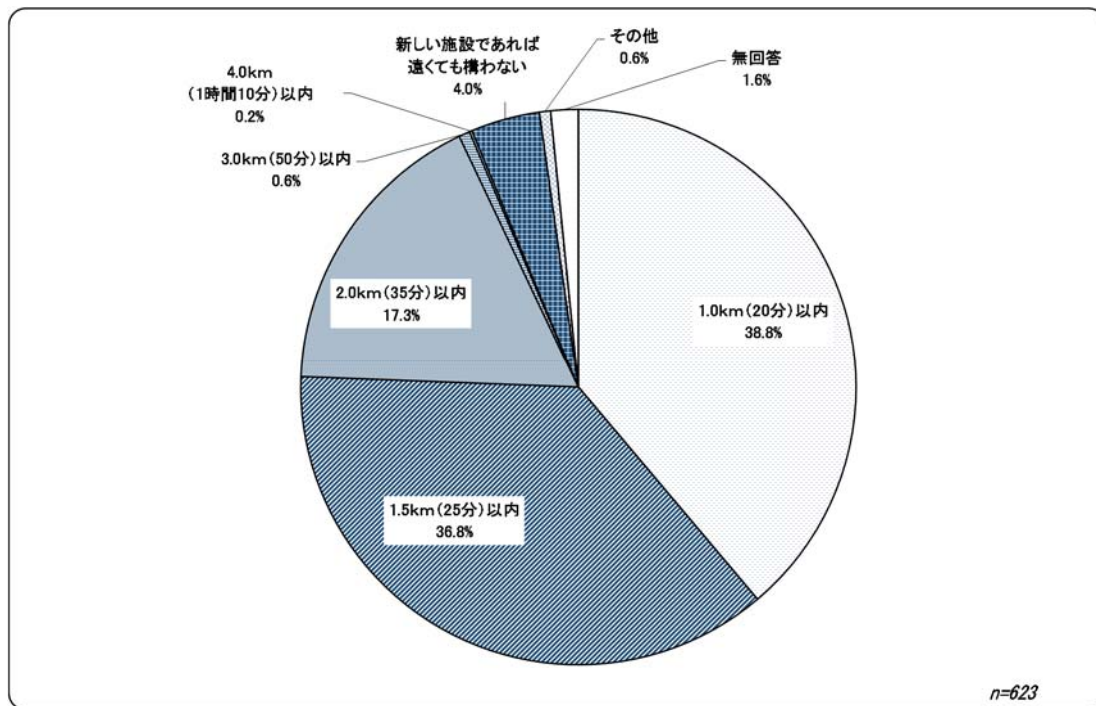
- 「通う学校を選択できるようになった場合に、学校を選ぶ上で重要なこと」の1位として最も多かった回答は、「通学距離が短い」でした。
- また、「友達が多く入学する」、「特色のある授業を行っている」、「設備が整っている」の選択肢についても、上位4番目までに選択する回答者が多くなっています。



2. 学校施設の適正規模・適正配置

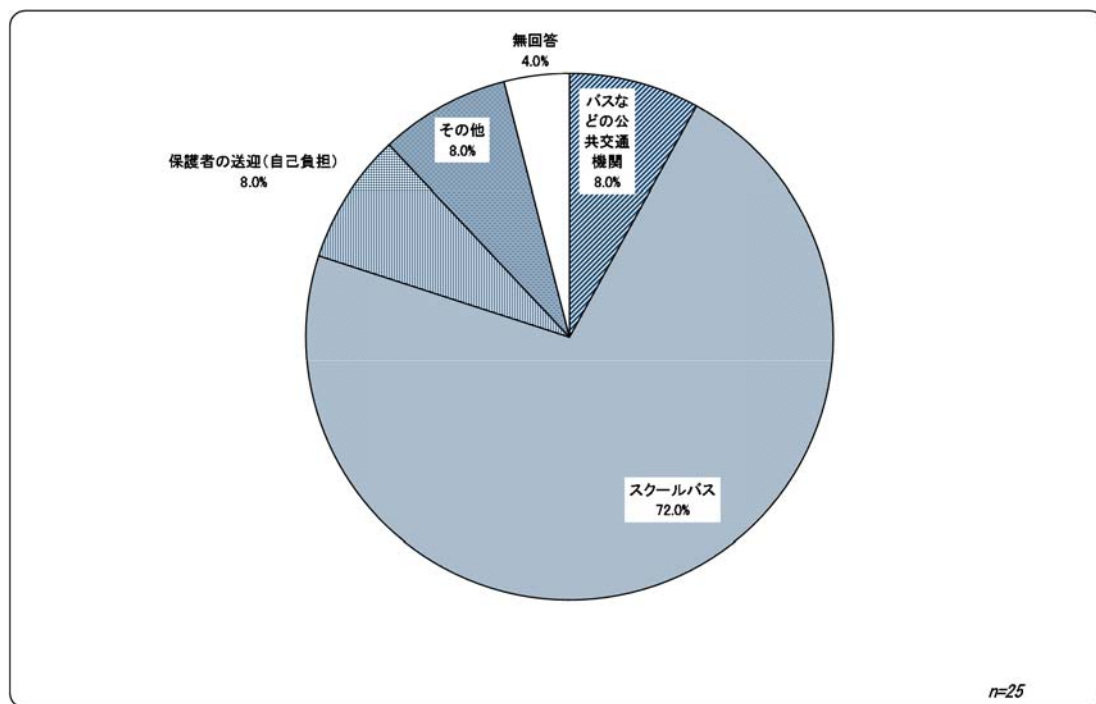
問5-1 小学生の通学距離として上限と思われる距離

- 「小学生の通学距離として上限と思われる距離」に対する回答としては、「1.0km（20分）以内（38.8%）」が最も多く、次いで「1.5km（25分）以内（36.8%）」、「2.0km（35分）以内（17.3%）」となっています。



問5-2 徒歩通学の上限を超える距離を小学生が通学する場合の手段

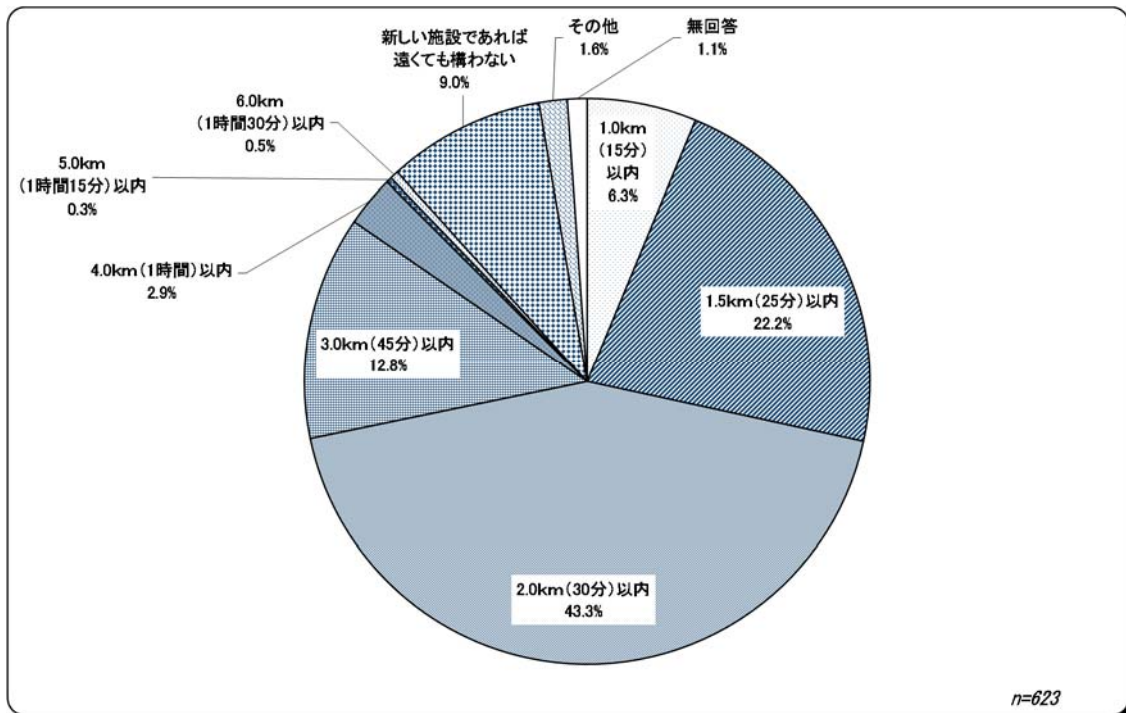
- 「徒歩通学の上限を超える距離を小学生が通学する場合の手段」に対する回答としては、「スクールバス（72.0%）」が最も多く、次いで「バスなどの公共交通機関（8.0%）」及び「保護者の送迎（自己負担）（8.0%）」となっています。



※「問5-1」で「新しい施設であれば遠くても構わない」を選択された方のみ回答

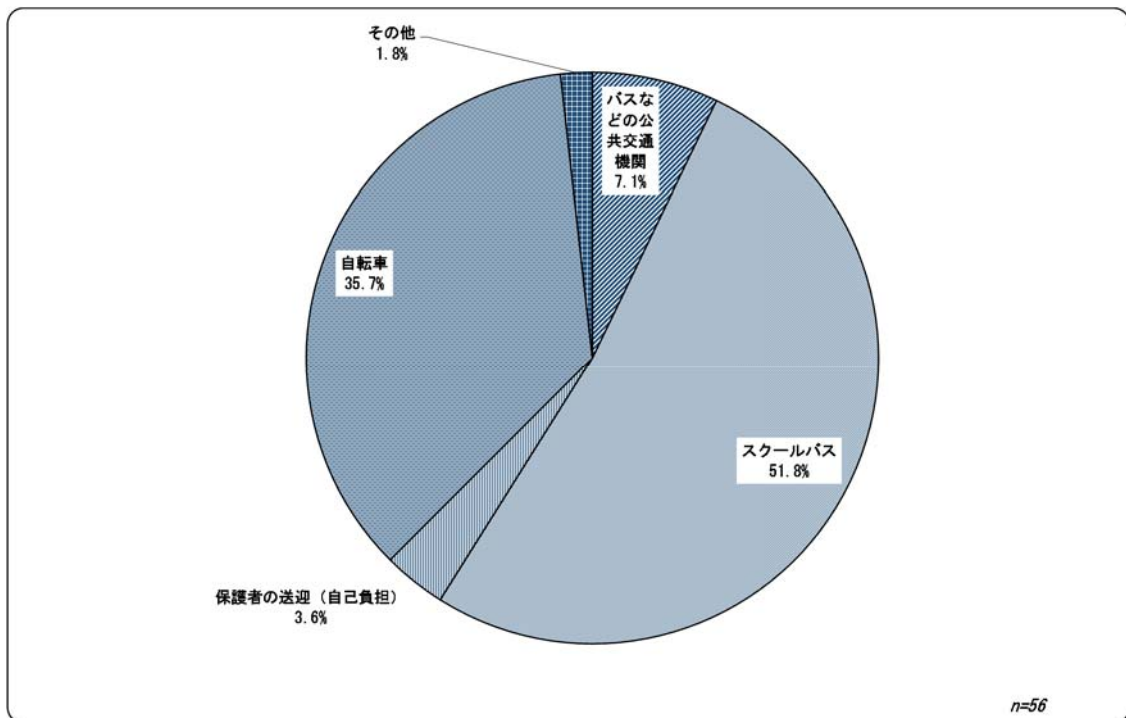
問6-1 中学生の通学距離として上限と思われる距離

- 「中学生の通学距離として上限と思われる距離」に対する回答としては、「2.0km (30分) 以内 (43.3%)」が最も多く、次いで「1.5km (25分) 以内 (22.2%)」、「3.0km (45分) 以内 (12.8%)」となっています。



問6-2 徒歩通学の上限を超える距離を中学生が通学する場合の手段

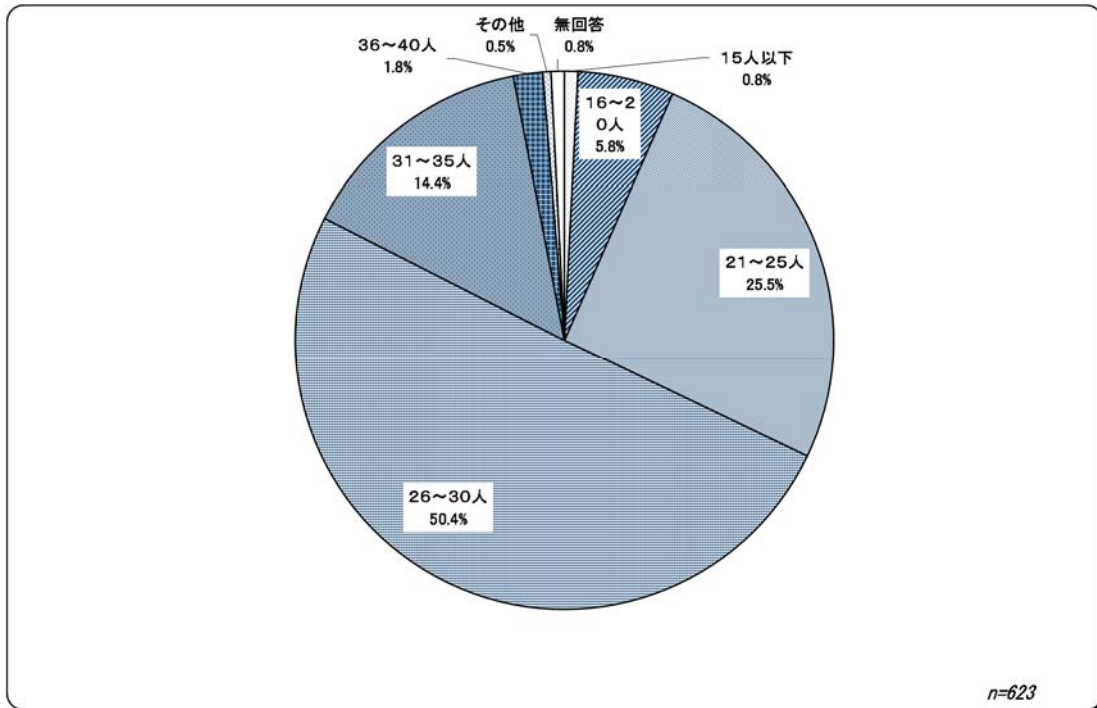
- 「徒歩通学の上限を超える距離を中学生が通学する場合の手段」に対する回答としては、「スクールバス (51.8%)」が最も多く、次いで「自転車 (35.7%)」、「バスなどの公共交通機関 (7.1%)」となっています。



※「問6-1」で「新しい施設であれば遠くても構わない」を選択された方のみ回答

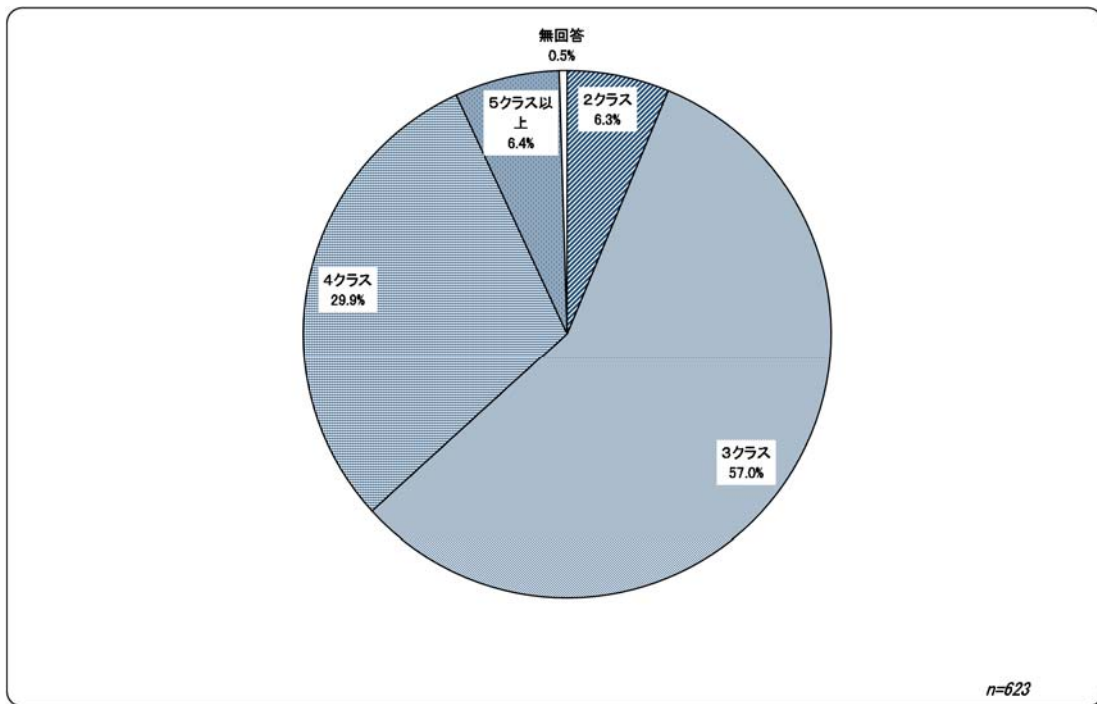
問7 1学級当たりの適正なクラス人数

- 「1学級当たりの適正なクラス人数」に対する回答としては、「26～30人（50.4%）」が最も多く、次いで「21～25人（25.5%）」、「31～35人（14.4%）」となっています。



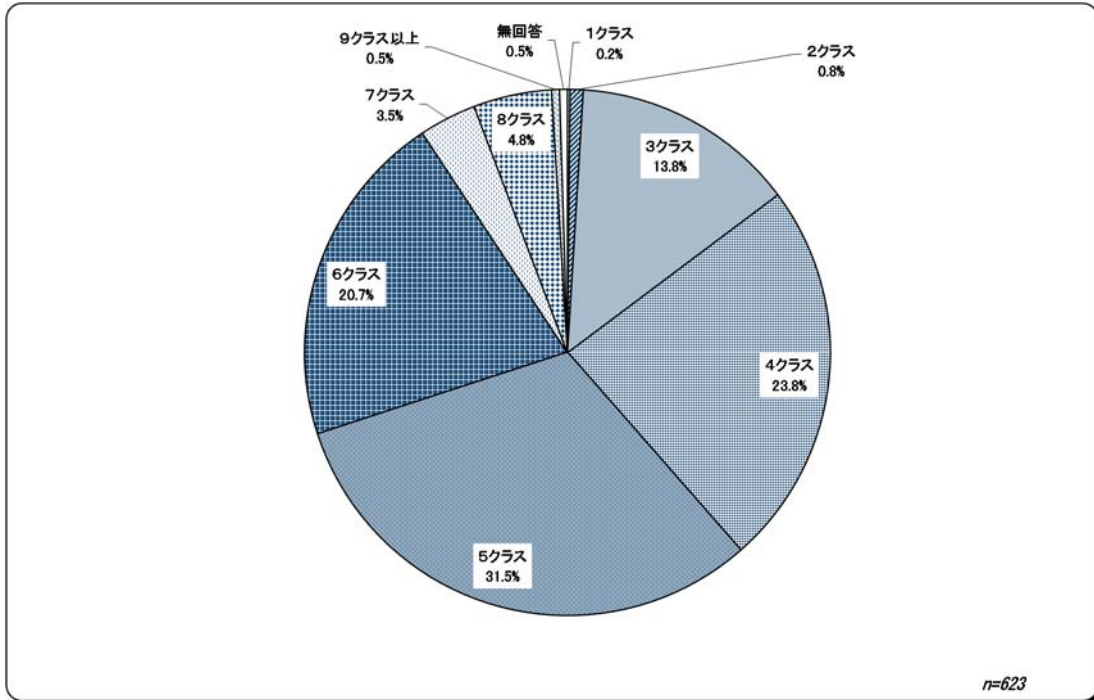
問8 1学年当たりの適正と考える小学校のクラス数

- 「1学年当たりの適正と考える小学校のクラス数」に対する回答としては、「3クラス（57.0%）」が最も多く、次いで「4クラス（29.9%）」、「5クラス以上（6.4%）」となっています。



問9 1学年当たりの適正と考える中学校のクラス数

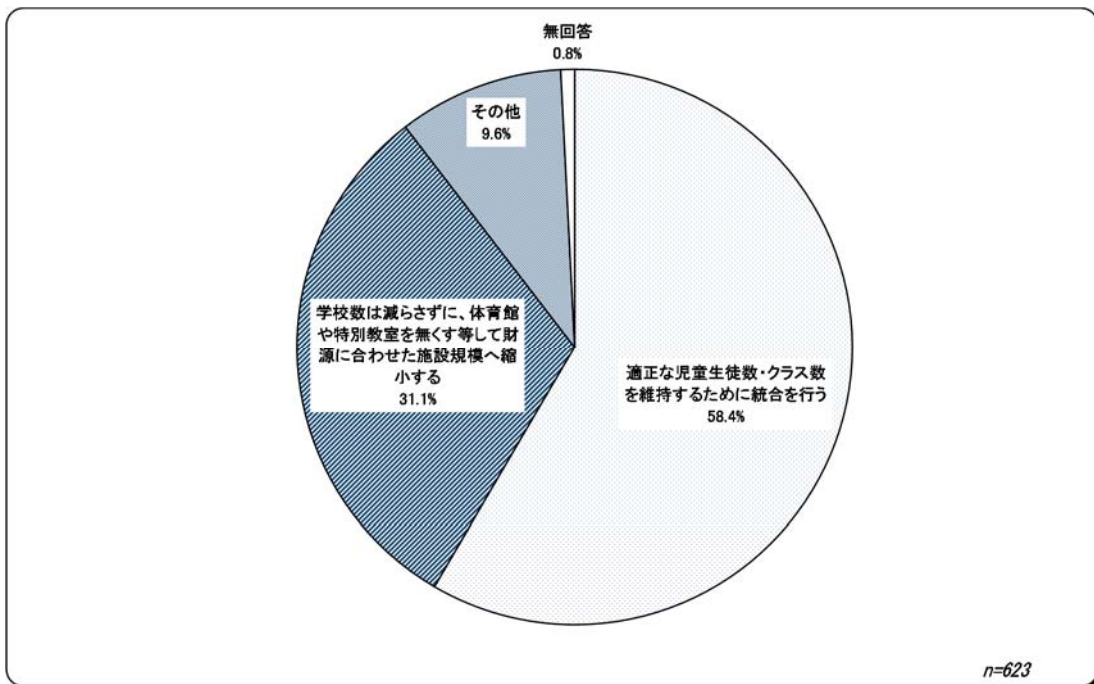
- 「1学年当たりの適正と考える中学校のクラス数」に対する回答としては、「5クラス(31.5%)」が最も多く、次いで「4クラス(23.8%)」、「6クラス(20.7%)」となっています。



3. これからの学校施設のあり方について

問10-1 35年後を見据えたとき、上尾市の学校施設としてどうしていくことが望ましいか

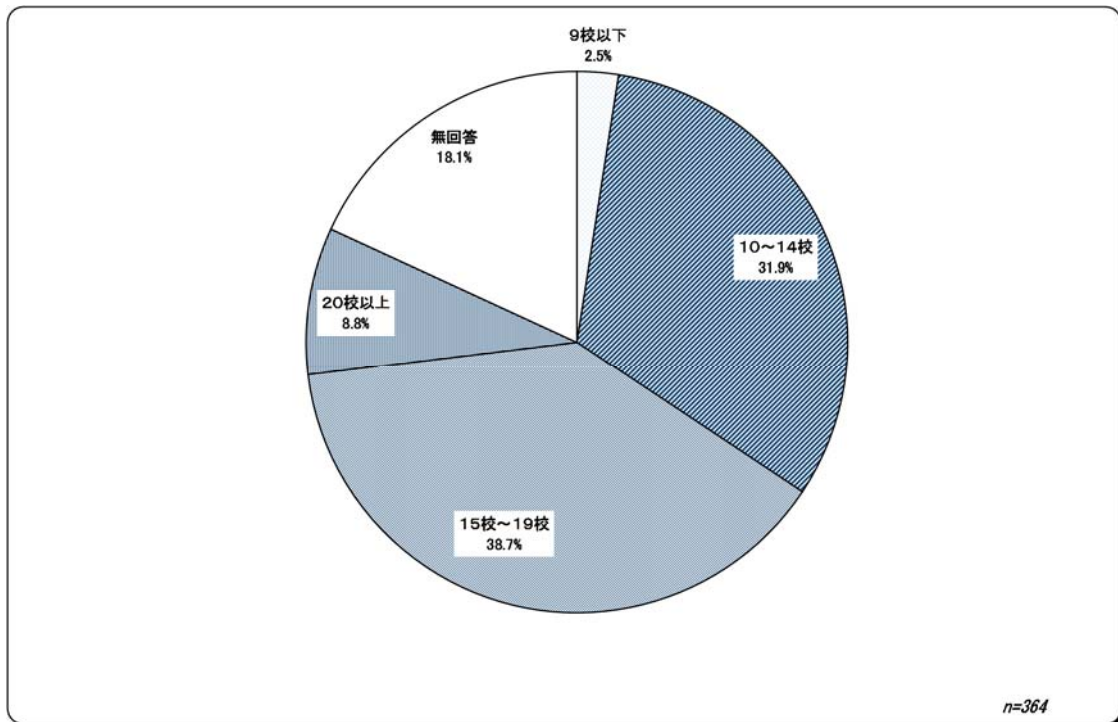
- 「35年後を見据えたときに、上尾市の学校施設としてどうしていくことが望ましいか」に対する回答としては、「適正な児童生徒数・クラス数を維持するために統合を行う(58.4%)」が最も多く、次いで「学校数は減らさずに、体育館や特別教室を無くす等して財源に合わせた施設規模へ縮小する(31.1%)」となっています。



問10-2 統合を行う場合、35年後の学校数ほどの程度が良いか

【小学校（現在22校）】

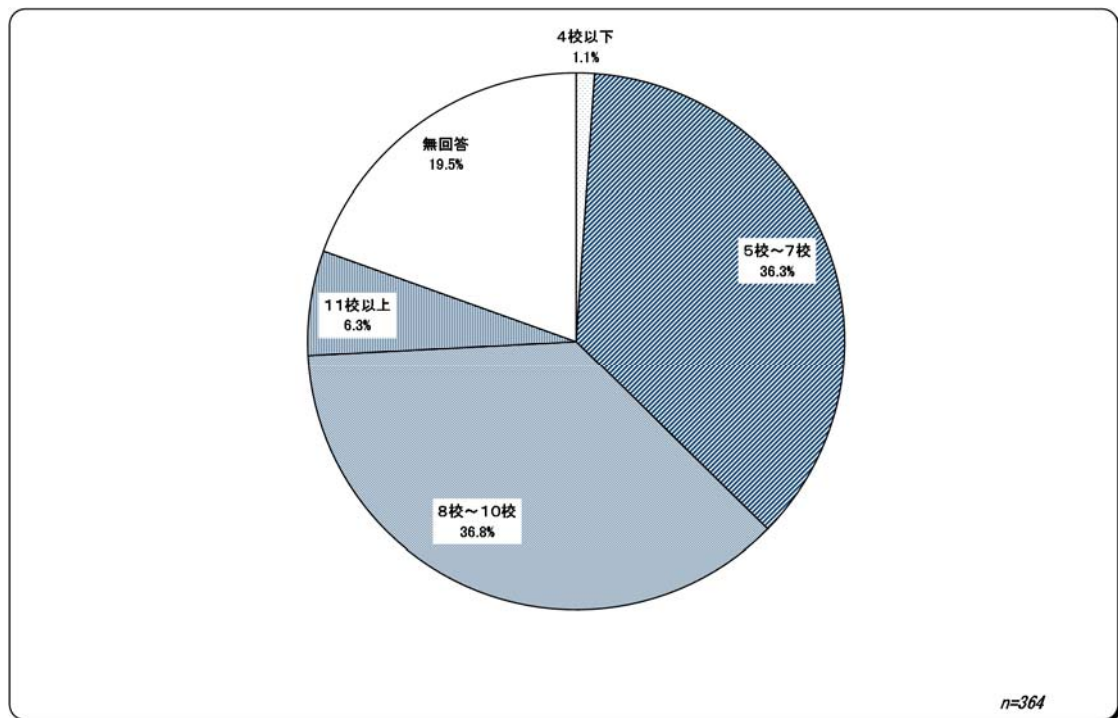
- 「統合を行う場合、35年後の学校数ほどの程度が良いか（小学校）」に対する回答としては、「15校～19校（38.7%）」が最も多く、次いで「10校～14校（31.9%）」となっています。



※「問10-1」で「適正な児童生徒数・クラス数を維持するために統合を行う」を選択された方のみ回答

【中学校（現在11校）】

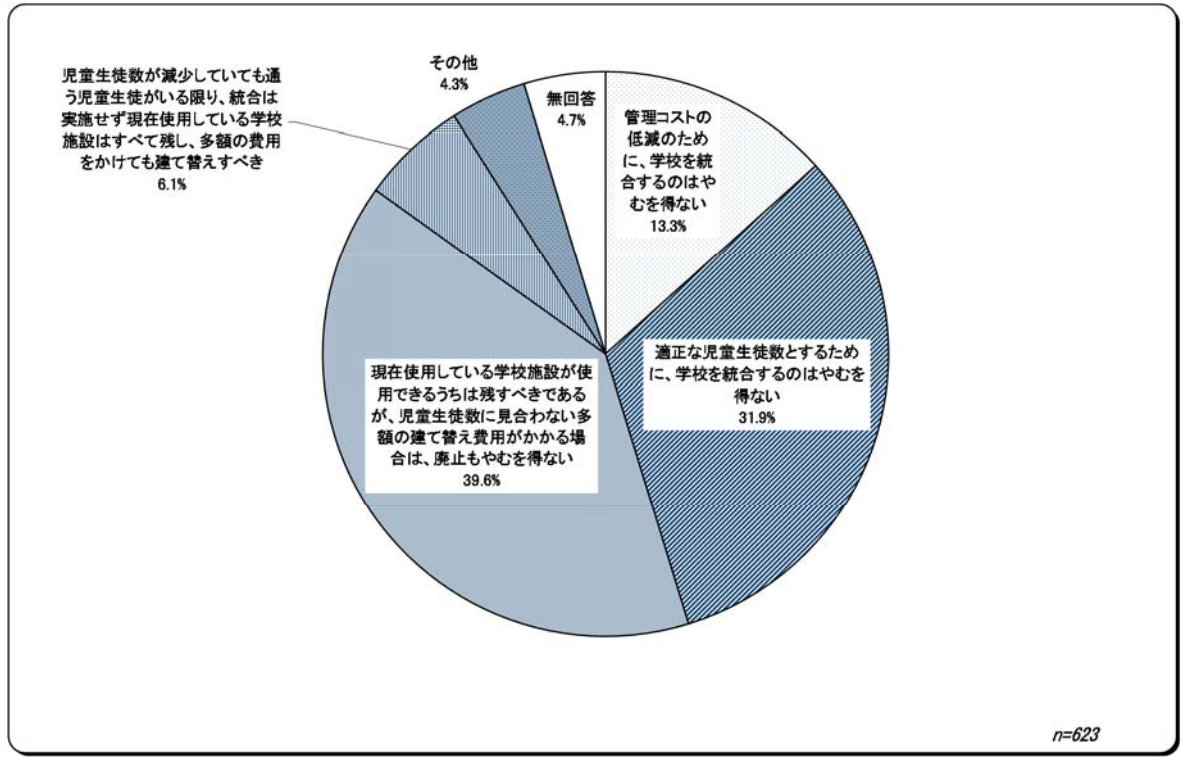
- 「統合を行う場合、35年後の学校数ほどの程度が良いか（中学校）」に対する回答としては、「8校～10校（36.8%）」が最も多く、次いで「5校～7校（36.3%）」となっています。



※「問10-1」で「適正な児童生徒数・クラス数を維持するために統合を行う」を選択された方のみ回答

問 1 1-1 今後の学校更新方法について、学校を建て替える際の考え方

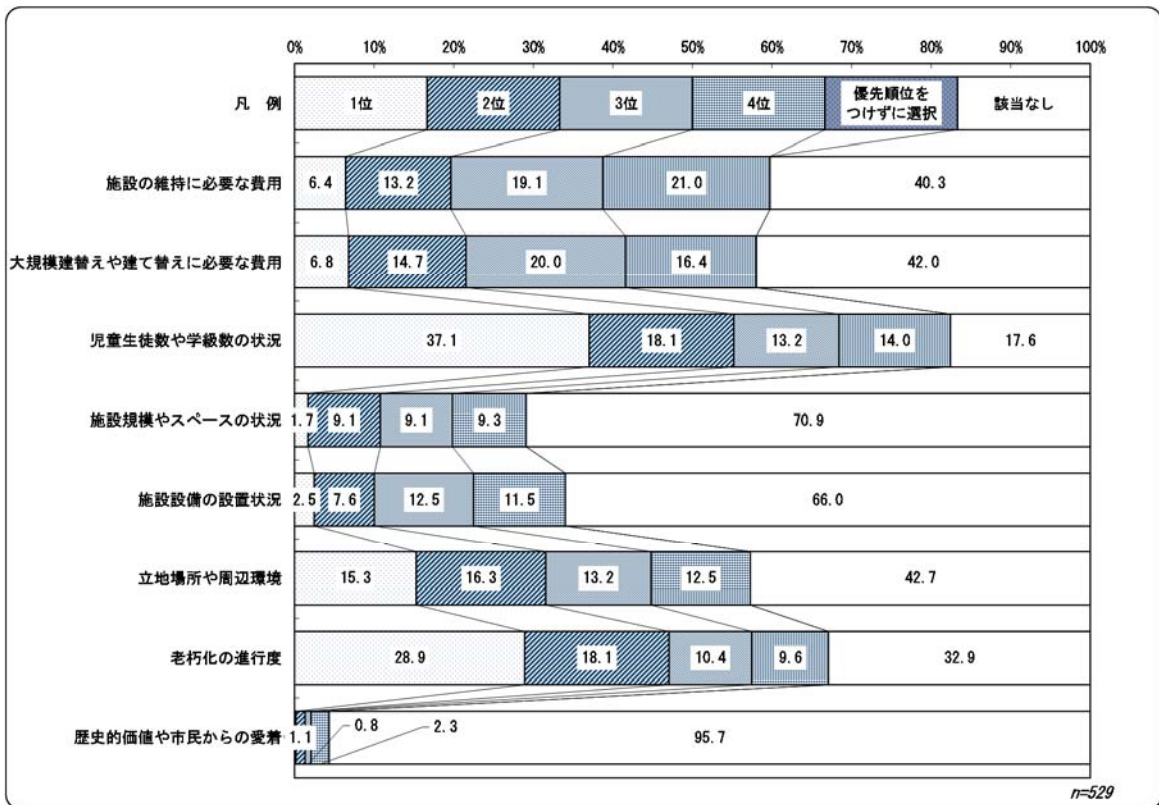
- 「今後の学校更新方法について、学校を建て替える際の考え方」に対する回答としては、「現在使用している学校施設が使用できるうちは残すべきであるが、児童生徒数に見合わない多額の建て替え費用がかかる場合は、廃止もやむを得ない(39.6%)」が最も多く、次いで「適正な児童生徒数とするために、学校を統合するのはやむを得ない(31.9%)」、「管理コストの低減のために、学校を統合するのはやむを得ない(13.3%)」、「管理コストの低減のために、学校を統合するのはやむを得ない(13.3%)」となっています。



問 1 1-2 学校施設の統合の対象となる施設を決定するにあたり、どのような点が重要か

[上位 4 番目までの優先順位]

- 「学校施設の統合の対象となる施設を決定するにあたり、どのような点が重要か」の 1 位として最も多かった回答は、「児童生徒数や学級数の状況」でした。
- また、「施設の維持に必要な費用」「大規模建替えや建て替えに必要な費用」「立地場所や周辺環境」「老朽化の進行度」の選択肢についても、上位 4 番目までに選択する回答者が多くなっています。



※「問 1 1-1」で以下を選択した方のみ回答

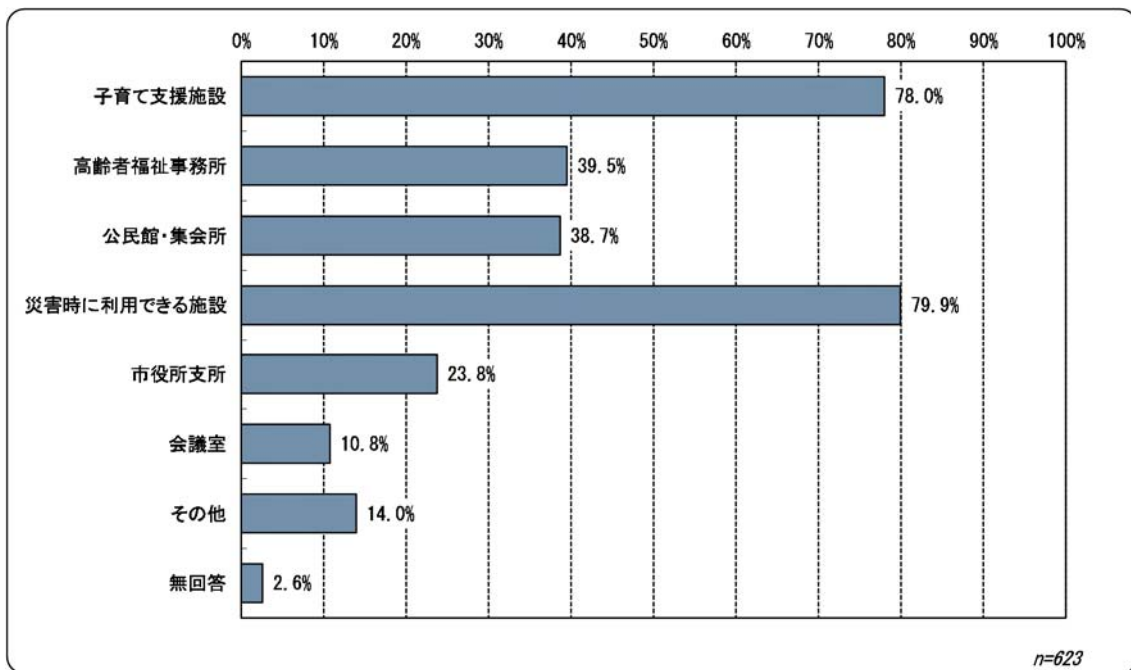
- ・管理コストの低減のために、学校を統合するのはやむを得ない
- ・適正な児童生徒数とするために、学校を統合するのはやむを得ない
- ・現在使用している学校施設が使用できるうちは残すべきであるが、児童生徒数に見合わない多額の建て替え費用がかかる場合は、廃止もやむを得ない

4. 新しい学校の活用方法について

問 1 2 お住いの地区にある学校施設で、今後どのような新しい活用の仕方ができるか

[当てはまるもの3つ]

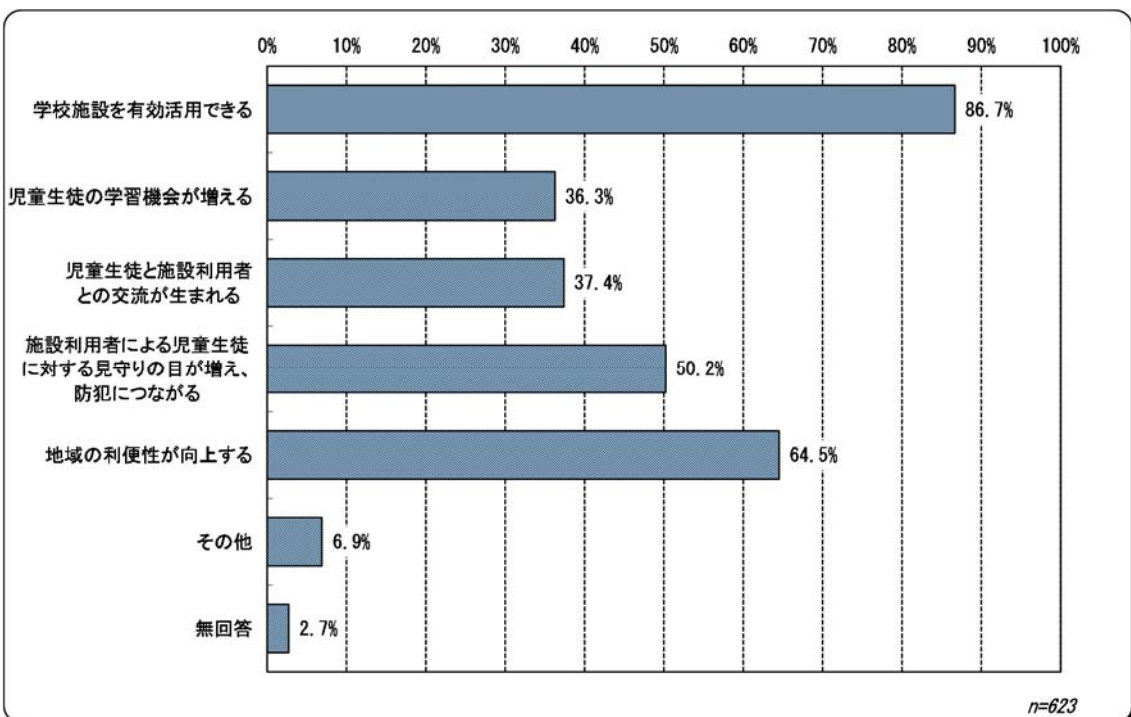
- 「お住いの地区にある学校施設で、今後どのような新しい活用の仕方ができるか」に対する回答としては、「災害時に利用できる施設(79.9%)」が最も多く、次いで「子育て支援施設(78.0%)」、「高齢者福祉事務所(39.5%)」、「公民館・集会所(38.7%)」となっています。



問 1 3 学校施設について、新しい活用の仕方が追加された場合、どのようなメリットがあるか

[当てはまるもの3つ]

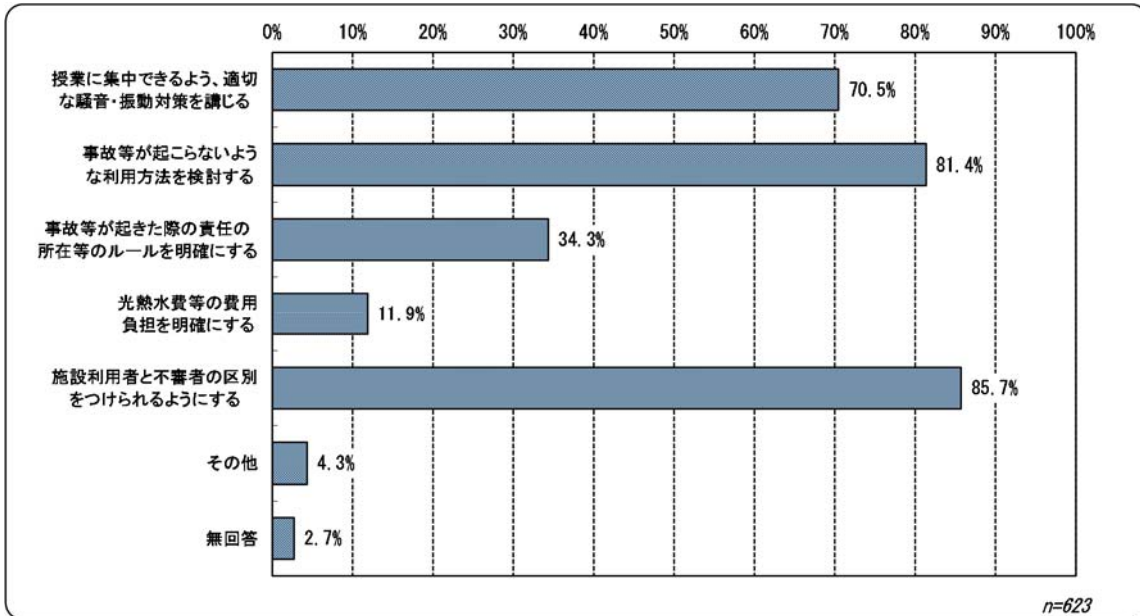
- 「学校施設について、新しい活用の仕方が追加された場合、どのようなメリットがあるか」に対する回答としては、「学校施設を有効活用できる(86.7%)」が最も多く、次いで「地域の利便性が向上する(64.5%)」、「施設利用者による児童生徒に対する見守りの目が増え、防犯につながる(50.2%)」となっています。



問 1 4 学校施設について、新しい活用の仕方が追加された場合、どのような点に配慮すべきか

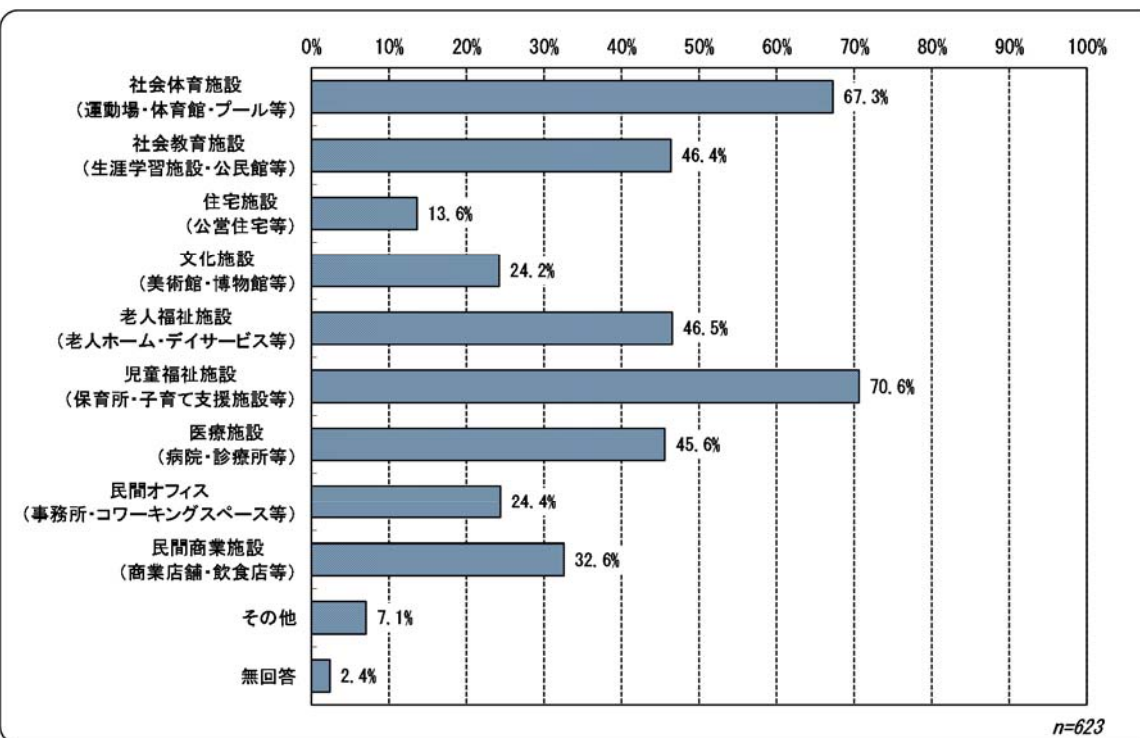
[当てはまるもの3つ]

- 「学校施設について、新しい活用の仕方が追加された場合、どのような点に配慮すべきか」に対する回答としては、「施設利用者と不審者の区別をつけられるようにする (85.7%)」が最も多く、次いで「事故等が起こらないような利用方法を検討する (81.4%)」、「授業に集中できるように、適切な騒音・振動対策を講じる (70.5%)」となっています。



問 1 5 学校施設を廃校とした場合の学校跡地について、どのような施設として活用することが望ましいか [当てはまるものすべて]

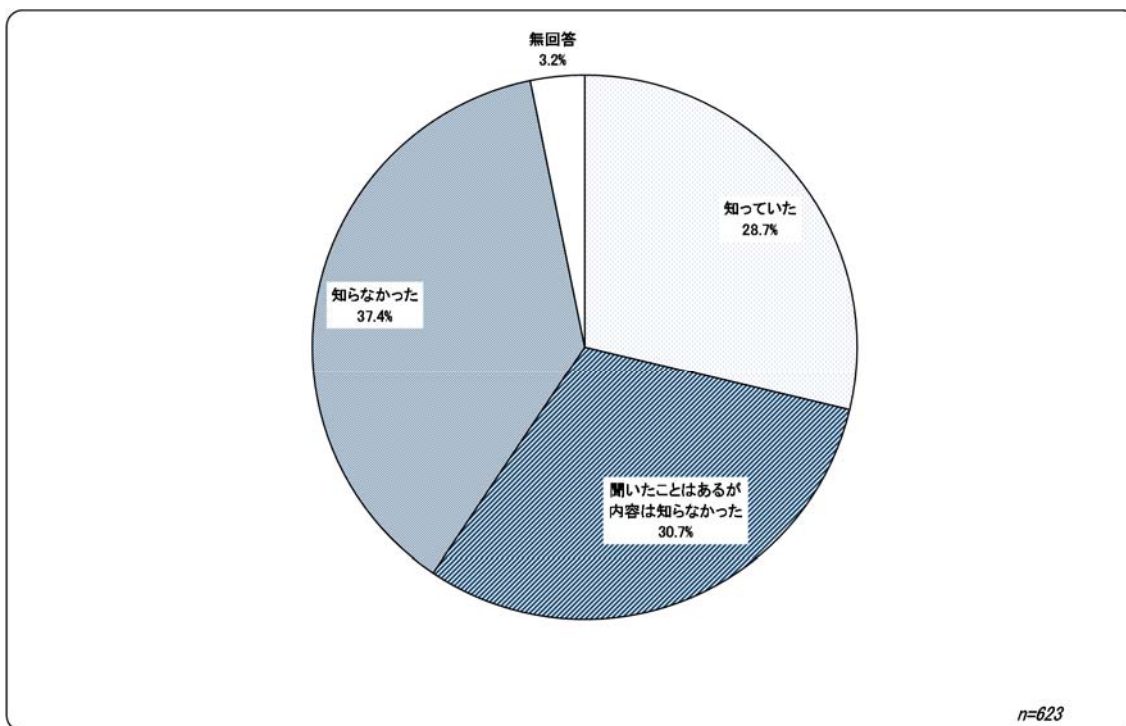
- 「学校施設を廃校とした場合の学校跡地について、どのような施設として活用することが望ましいか」に対する回答としては、「児童福祉施設 (70.6%)」が最も多く、次いで「社会体育施設 (67.3%)」、「社会教育施設 (67.3%)」、「老人福祉施設 (46.5%)」、「社会教育施設 (46.4%)」となっています。



5. 新しい学校教育について

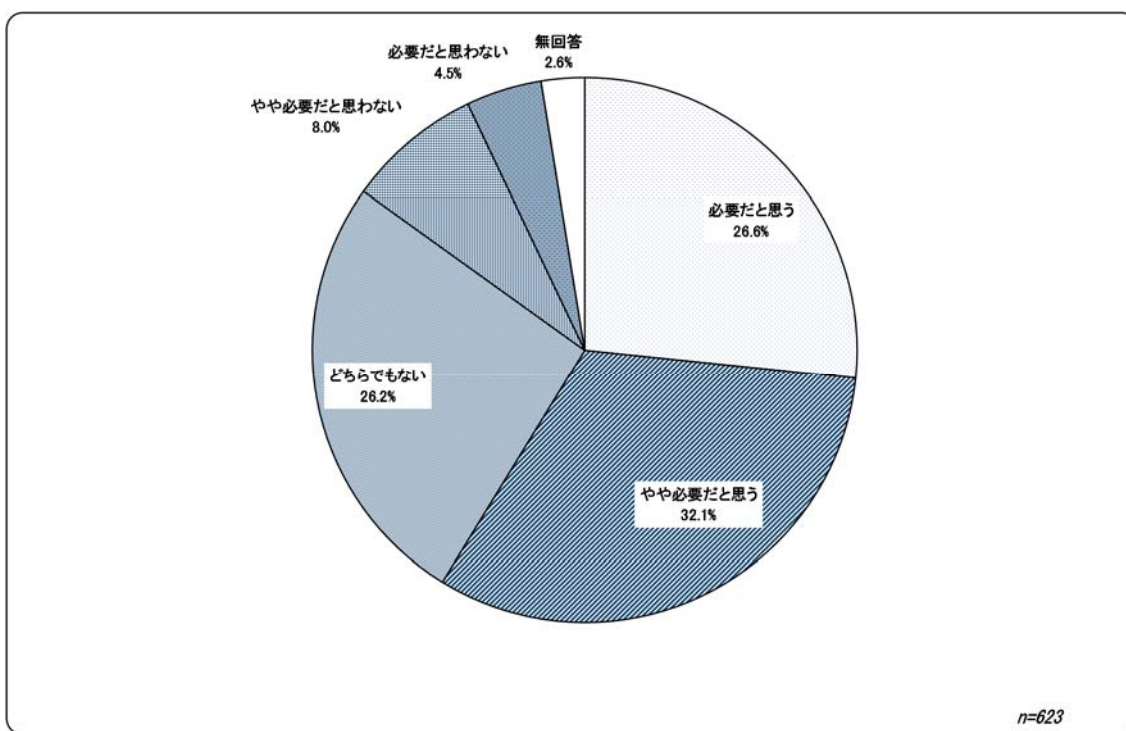
問16 小中一貫教育について、「別紙参考資料2」を見る前に知っていたか

- 「小中一貫教育について、「別紙参考資料2」を見る前に知っていたか」に対する回答としては、「知らなかった（37.4%）」が最も多く、次いで「聞いたことはあるが内容は知らなかった（30.7%）」、「知っていた（28.7%）」となっています。



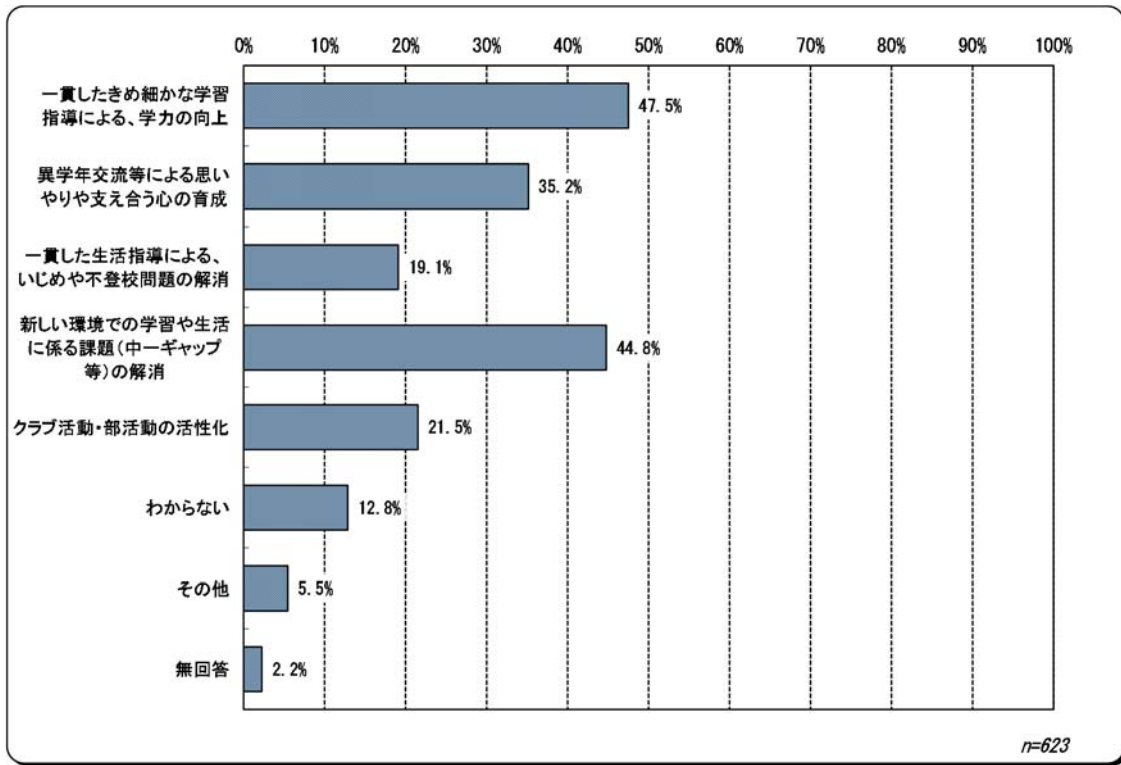
問17 小中一貫教育は、これからの学校教育として必要か

- 「小中一貫教育は、これからの学校教育として必要か」に対する回答としては、「やや必要だと思う（32.1%）」が最も多く、次いで「必要だと思う（26.6%）」、「どちらでもない（26.2%）」となっています。



問18 小中一貫教育に期待する効果について [当てはまるもの2つ]

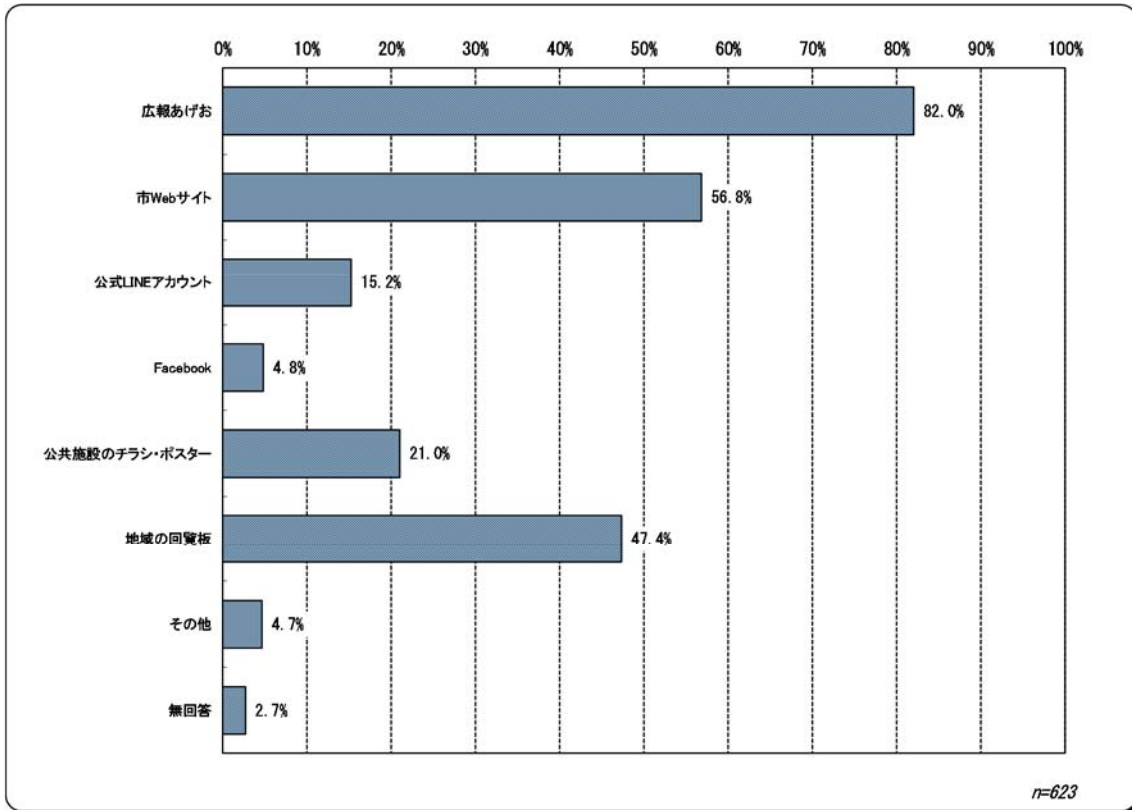
- 「小中一貫教育に期待する効果について」に対する回答としては、「一貫したきめ細かな学習指導による、学力の向上（47.5%）」が最も多く、次いで「新しい環境での学習や生活に係る課題（中一ギャップ等）の解消（44.8%）」、「異学年交流等による思いやりや支え合う心の育成（35.2%）」となっています。



6. 今後の学校施設のあり方を検討する方法について

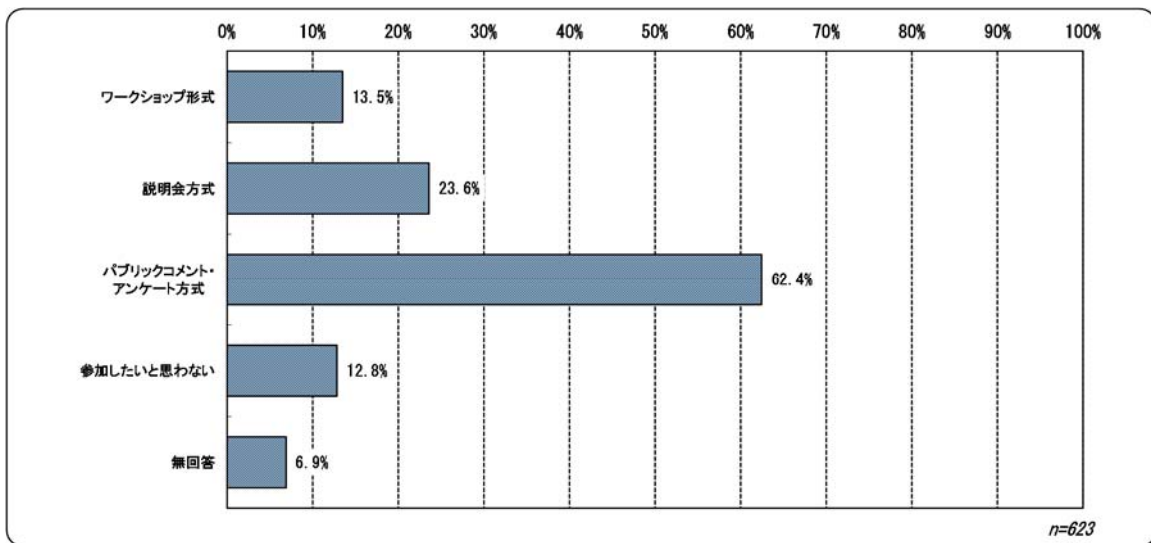
問19 市が発信する情報を得る手段として活用しているもの [当てはまるものすべて]

- 「市が発信する情報を得る手段として活用しているもの」に対する回答としては、「広報あげお(82.0%)」が最も多く、次いで「市Webサイト(56.8%)」、「地域の回覧板(47.4%)」となっています。



問20-1 今後の学校施設のあり方を検討する場合、どのような方法であれば参加したいか [当てはまるものすべて]

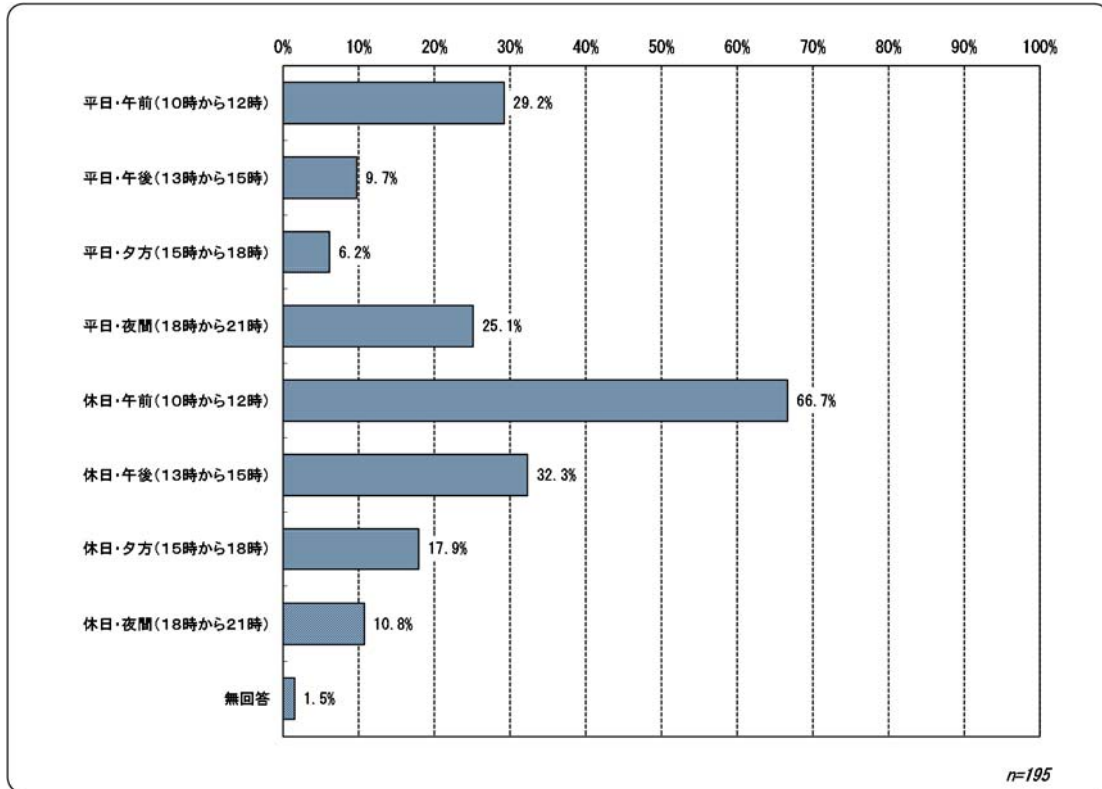
- 「今後の学校施設のあり方を検討する場合、どのような方法であれば参加したいか」に対する回答としては、「パブリックコメント・アンケート方式(62.4%)」が最も多く、次いで「説明会方式(23.6%)」、「ワークショップ形式(13.5%)」となっています。



問20-2 ワークショップもしくは、説明会を開催する場合、どの曜日と時間帯を希望するか

[当てはまるものすべて]

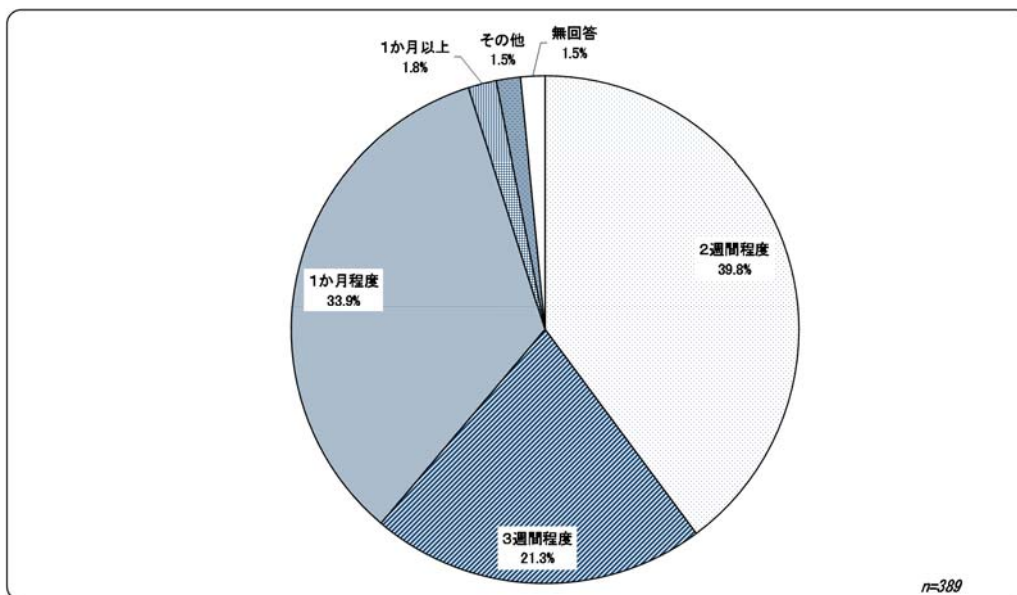
- 「ワークショップもしくは、説明会を開催する場合、どの曜日と時間帯を希望するか」に対する回答としては、「休日・午前（10時から12時）（66.7%）」が最も多く、次いで「休日・午後（13時から15時）（32.3%）」、「平日・午前（10時から12時）（29.2%）」となっています。



※「問20-1」で「ワークショップ形式」、「説明会方式」を選択された方のみ回答

問20-3 取り組み案を読み、意見を送るまでの期間として、どの程度必要か

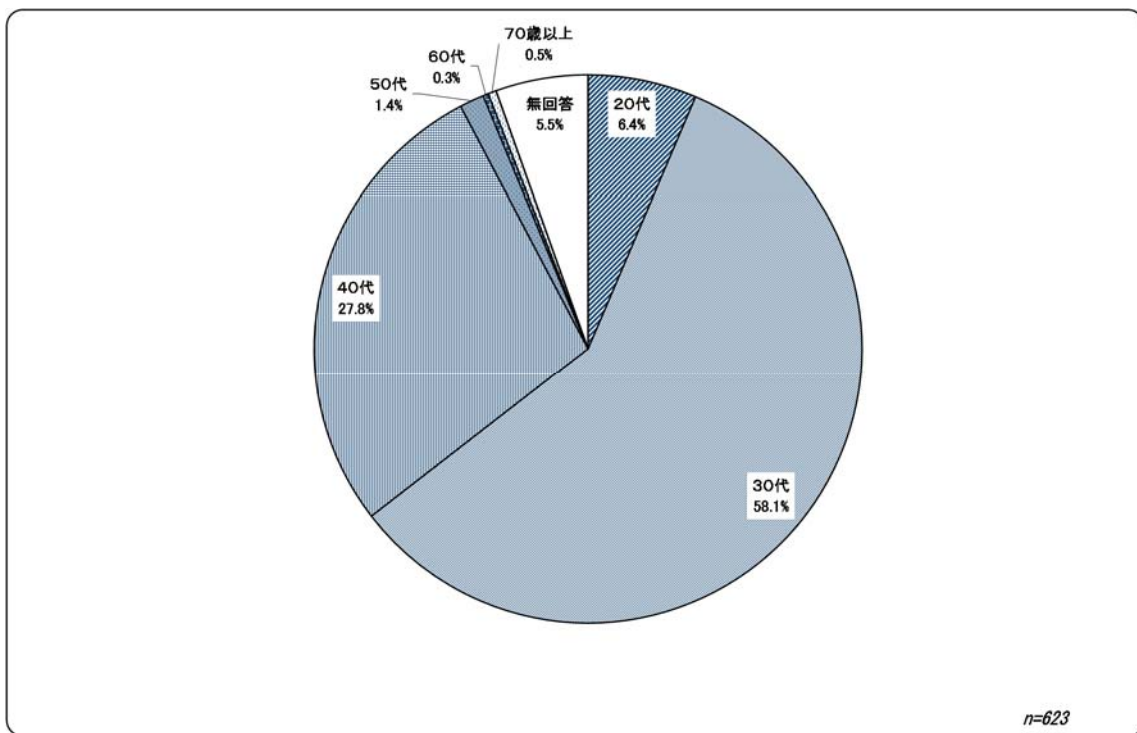
- 「取り組み案を読み、意見を送るまでの期間として、どの程度必要か」に対する回答としては、「2週間程度（39.8%）」が最も多く、次いで「1か月程度（33.9%）」、「3週間程度（21.3%）」となっています。



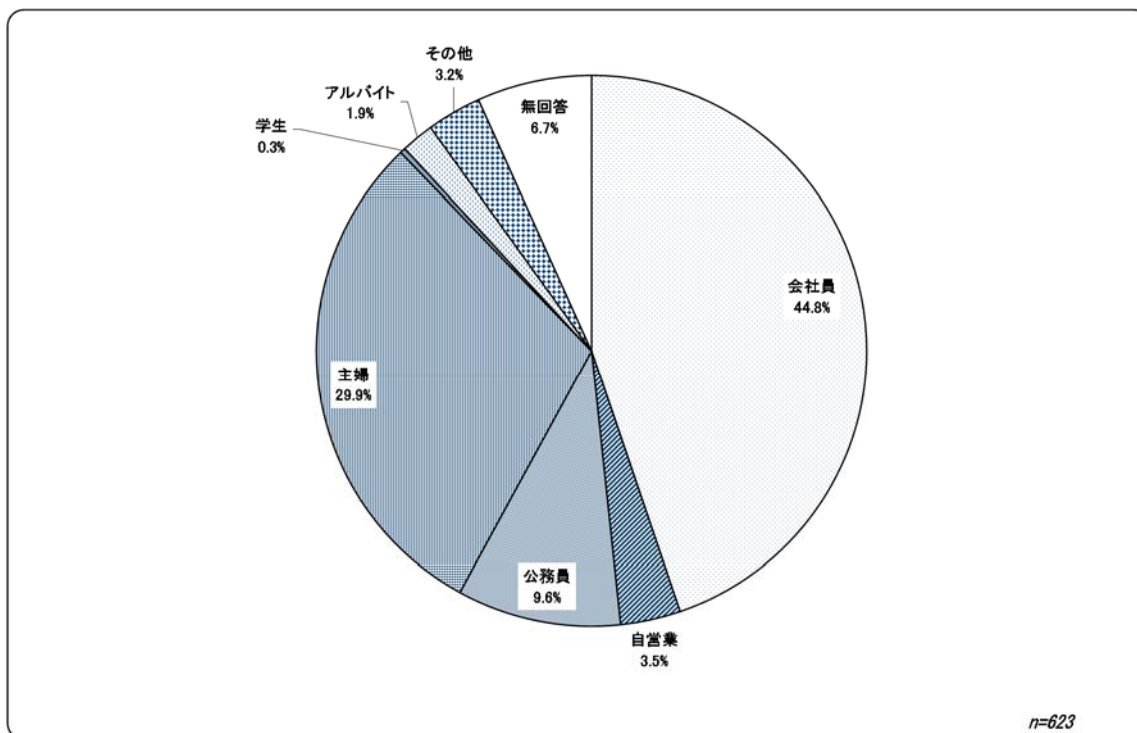
※「問20-1」で「パブリックコメント、アンケート方式」を選択された方のみ回答

7. 回答者の属性

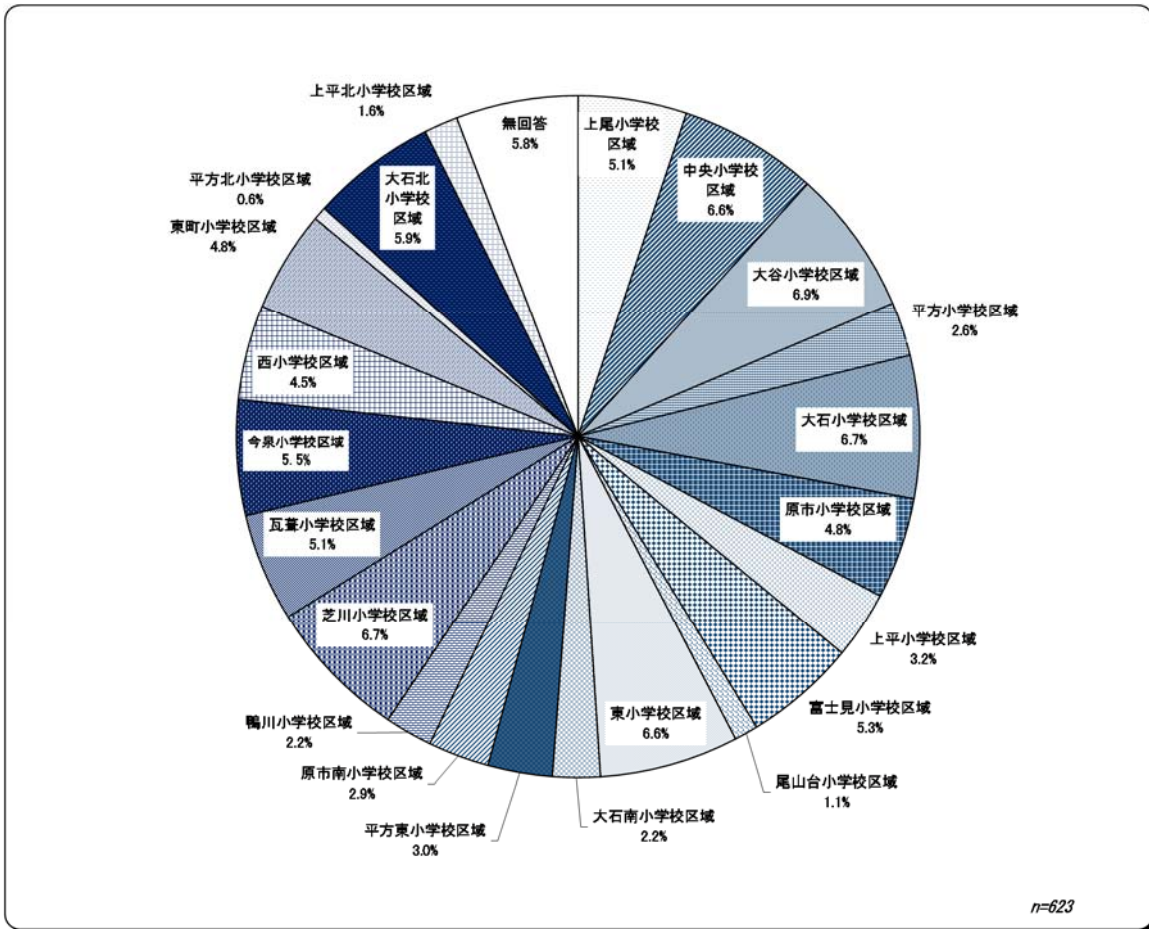
問 2 2 (1) 年齢



問 2 2 (2) 職業



問 2 2 (3) 居住地区



問 2 2 (4) 未就学児以外のお子さんの有無

